



東京ホームタウン大学

分科会 4

人生の最後に地域はどうかかわるか？

②葬儀社から見た、地域と家族の葬儀

クローバーグループ代表

小金井祭典株式会社 代表取締役

是 枝 嗣 人



葬儀社から見た 地域と家族の 葬儀

季節のお花を使った あたたかな 家族葬



本日お話すること

- ・ 自己紹介
- ・ 地域と葬儀の関わり方の歴史
戦前～高度経済成長期～現在
- ・ 今、地域が求められるもの
- ・ これから葬儀社が
家族や地域にできること

是枝 嗣人

1979年 3月 6日 生 37歳



- 東京都小金井市生まれ小金井育ち
 - 立正大学佛教学部佛教学科佛教学コース卒
 - 2000年 大学3回生時に葬儀業界へ
 - 2007年 小金井祭典(株)を設立 28歳時
 - 2009年～ グリーフサポートの専門家を目指す
 - 2011－2012 東京大学市民後見人講座修了
 - 2012年 上智大学グリーフケア講座修了
介護者支援のNPO法人 理事を受任
 - 2013年 弔い百年塾 高野登氏（元リッツカールトン日本総支配人）と講演
- 東京観光専門学校フューネラルビジネス学科 非常勤講師
病院・専門学校・介護施設・自治体・社協・地域包括等で講演
グリーフサポートバディ 終活カウンセラー
首都圏葬祭業協同組合 副理事長 関連会社2社の役員



よい人生 よい老後 よい介護 よいみとり よいおくり よい供養

私たちはいつでも そっと あなたの隣に

その為に我々が行っていること



その為に我々が行っていること

- ・地域社会へのお手伝い 知り合いになる、接点を持つ
- ・子ども達への学習 東京コミュニティスクール 『個の尊厳』
- ・成年後見人サポート (東京大学 等)
- ・介護者【ケアラー】サポート (NPO法人 UPTREE)
- ・グリーフサポート (上智大学グリーフケア研究所 等)
- ・学習会講師 (新しいおみおくり講座・エンディングノート書き方講座 等)
- ・医療業界・仏教界・葬祭業界・供養業界・市民向け啓発活動
- 弔い百年塾 一般社団法人 リヴオン
- ・子どもを亡くした家族のサポート
(一般社団法人 The Egg Tree House)



葬送は地域のモノ
であった

野辺のおくり 葬列

葬送は元来地域のモノであった



村社会の中 村八分

- 成人式
- 結婚式
- 出産
- 病気の世話
- 新改築の手伝い
- 水害時の世話
- 年忌法要
- 旅行
- 葬式の世話
- 火災時の消火活動

葬式の世話が除外されるのは、死体を放置すると腐臭が漂い、また伝染病の原因となるためとされ、また死ねば生きた人間からは裁けないという思想の現れともいう。

榎垣 実（うめがきみのる）

1901年 - 1976年 九州大学教授

言語学者。専門は比較語学、方言、隠語



寺請制度の中の葬送

江戸期～昭和初期

地域のお寺があった

- 必ず寺院の檀家になる
- 行政（寺院）と市民の密接な関係
- お寺は 役場・病院・学校・娯楽施設
- 相互扶助の精神 （講の成立）
- 地域の中でしか生きられない
- 維新後も檀家制度で存続



昭和・平成の葬送

戦後～高度経済成長期～バブル期(90年代)
生活圏は変わり葬送の在り方も変貌

- 家長制度の廃止
- 火葬率の向上
- 大都市圏の人口集中
- サラリーマンの増加
- ベットタウンや団地の成立
- 寺院との関係に変化が
- 葬儀社の成立
- とはいえ人情があった



葬具屋さんから葬儀屋さん

昭和期

地域と僧侶のモノ
であった葬送が葬
儀という商品へと
変化、葬儀社が成
立し地域と同等の
関係に会社関係が
重要視される

大都市圏では大正期の
成立が多い

(東京は桶屋が多い)



葬儀の打ち合わせ

高度経済成長期～バブル期～2005年くらいまで

葬儀屋：どんなお葬式にしたいですか？

遺 族：ふつうでお願いします。
あそこの〇〇さん家ぐらいで



人員構成

高度経済成長期～バブル期(90年代)

亡くなる人:60代から70代
隠居

遺族(喪主):40代から50代
現役(給料は右肩上がり)



亡くなる場所・葬儀する場所

高度経済成長期～バブル期(90年代)

亡くなる場所：昭和51年自宅より

病院で亡くなる人が多い

葬 儀 会 場：自宅またはお寺(20世紀)

会館は自宅の3キロ圏内

近所の対応：自宅葬は場所と労力を

会館葬では労力を

(労力とは 案内・受付・配膳・食事等)



大好きだった黄色いバラに囲まれて

現在
家族葬が中心
自分らしい葬送への
こだわりと、意味が
解らないのでなるべく
安く済ませてくださいなど。
多様性が認められる



葬儀の打ち合わせ

2005年～現在

葬儀屋：どんなお葬式にしたいですか？

遺 族：家族葬でお願いします。

なるべくシンプルにお願いします（費用かけない）

こんなことできるのかしら？（費用ではない）



人員構成

バブル期(90年代)～現在

亡くなる人:80代から100歳代
隠居

遺族(喪主):60代から70代
セカンドライフ
(主に年金収入)



亡くなる場所・葬儀する場所

現在～これから

亡くなる場所：自宅で看取る方が少しずつ増

葬 儀 会 場：ちょっと遠くても家族葬ホール
自宅葬の簡易化

近所の対応：自宅葬は前後にお線香を
会館葬では会葬すらしない
(呼ばれない)

お葬式の意味合いが変わってきている



以前のお葬式

- 人並みは何よりも大事
- 非日常空間の演出
- 普段会わない会葬者中心
- 遺族が世間に向けてのけじめ中心
- 何時やる？何処でやる？
- 行ける・行けない

現在のお葬式

- その人らしさの表現
- 日常の延長線でおくる
- 普段会わない家族中心
- 遺族が自分達の内面に向けてのけじめ中心
- やる？やらない？
- 伺って良いものでしょうか？

核家族化が進み、親族単位から家族単位の価値観へ移行、地域社会よりも別地域に暮らす家族の思いを中心に葬送が行われるようになっている



もうひとつの問題

おひとりさま

相続人の有無：縁遠い甥・姪がいる？

後見人の有無：任意か法定か

近所の対応：どうすればいいの？



地域の中の葬送

現在～これからの問題点

地域で支えざる得ない時代がくる

- 地域包括ケアシステムの活用
- 児童民生委員の活躍と負担
- 成年後見制度の活用と問題
- 町会・自治会の問題
- 隣組 近所付き合い
- 高齢者の相互安否確認
- NPOなど地域コミュニティの活用



厚生労働省HP地域包括ケアシステムより抜粋

地域包括ケアシステムの5つの構成要素と「自助・互助・共助・公助」

平成25年3月
地域包括ケア研究会報告書より

〇高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指す「地域包括ケアシステム」。

地域包括ケアシステムにおける「5つの構成要素」



「介護」、「医療」、「予防」という専門的なサービスと、その前提としての「住まい」と「生活支援・福祉サービス」が相互に関係し、連携しながら在宅の生活を支えている。

【住まいとすまい方】

●生活の基盤として必要な住まいが整備され、本人の希望と経済力に合った住まい方が確保されていることが地域包括ケアシステムの前提。高齢者のプライバシーと尊厳が十分に守られた住環境が必要。

【生活支援・福祉サービス】

●心身の能力の低下、経済的理由、家族関係の変化などでも尊厳ある生活が継続できるよう生活支援を行う。
●生活支援には、食事の準備など、サービス化できる支援から、近隣住民の声かけや見守りなどのインフォーマルな支援まで幅広く、担い手も多様。生活困窮者などには、福祉サービスとしての提供も。

【介護・医療・予防】

●個々人の抱える課題にあわせて「介護・リハビリテーション」「医療・看護」「保健・予防」が専門職によって提供される（有機的に連携し、一体的に提供）。ケアマネジメントに基づき、必要に応じて生活支援と一体的に提供。

【本人・家族の選択と心構え】

●単身・高齢者のみ世帯が主流になる中で、在宅生活を選択することの意味を、本人家族が理解し、そのための心構えを持つことが重要。

「自助・互助・共助・公助」からみた地域包括ケアシステム



【費用負担による区分】

●「公助」は税による公の負担。「共助」は介護保険などリスクを共有する仲間(被保険者)の負担であり、「自助」には「自分のことを自分でする」に加え、市場サービスの購入も含まれる。
●これに対し、「互助」は相互に支え合っているという意味で「共助」と共通点があるが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的なもの。

【時代や地域による違い】

●2025年までは、高齢者のひとり暮らしや高齢者のみ世帯がより一層増加。「自助」「互助」の概念や求められる範囲、役割が新しい形に。
●都市部では、強い「互助」を期待することが難しい一方、民間サービス市場が大きく「自助」によるサービス購入が可能。都市部以外の地域は、民間市場が限定的だが「互助」の役割が大。
●少子高齢化や財政状況から、「共助」「公助」の大幅な拡充を期待することは難しく、「自助」「互助」の果たす役割が大きくなることを意識した取組が必要。



ひとりで旅立つひと

あなたをおくるひとは必ずいます

一人で生まれ一人で死ぬ人などいません

付き合いのない縁者が亡くなった人

筋道が立っていれば迷惑とまではいかない

亡くなった人の尊厳が守られる程度の準備は必要

大切なひとを残していくひと

誰にも迷惑はかけたくない

残された人のこころのことも考えてください

大切なひとをおくるひと

負担はあるが迷惑ではない

自分たちが納得のいく葬送を行う必要性があります



バランスの崩れたところの支えかた

グリーフサポート

喪失感（死別だけではない）
により自分らしい
表現ができなく
なったときに及ぼ
す影響とその支え
方



自分らしさは
周囲との関係で作られる。



喪失体験

13

死別により大切な人と
一緒に多くの物が失われる





地域の中の葬儀社

そのために地域に開かれた葬儀社であることが大事
地域コミュニティの形成のお手伝い

- 地域の情報のハブとなる（民間情報）
- コミュニティーサークルへの場所提供
- 子育てなど他情報もあつかう
- 葬儀社という敷居をいかに低くするか
- 女性が安心して話せる雰囲気
- グリーフサポートのよりどころ



小金井祭典の ちょっと訊ける場所 めぐる

代表取締役 是枝 嗣人

お葬式、お墓のことお気軽にご相談ください。仏具各種あります。

小金井市本町 5-32-19 本町小学校正門前



0120-4194-34





ご清聴ありがとうございました

今日を機会に地域と葬送

一緒に考えていきましょう。